



開園祭での作品販売

パプテスト心身障害児(者)を守る会

愛の手を

第197号

発行責任者
 社会福祉法人 パプテスト心身
 障害児(者)を守る会
 重症心身障害施設 久山療育園
 重症児者医療療育センター
 理事長 宮崎 信義
 編集責任者 中村 晴光
 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869
 ☎(092)976-2281
 FAX (092)976-2172

「喜びに満ちた食卓」

理事(元保護者) 志満 秀武

久山療育園のひかり棟、めぐみ棟、グループホーム、通所棟での食事の光景には共通したものがあります。

者と職員の皆さんとのやり取りもまた、とても楽しくお互いに励まされ力付けられる一時でもあります。更にいつも明るく笑いの絶えないボランティアの皆さんが様々なお手伝いをして頂いています。

中に利用者の症状に合わせて丁寧にきめ細かく調理され、栄養分を十分に考慮し提供される食事は実に美しいものであります。食事を目にして、ひと口、口にいった利用者の皆さんが大きな声を発することでも「豊かな食事」であることがわかります。介助する療育員の皆さんも誤嚥等に十分に注意しつつ、しかし笑顔で声掛けを行いながら食事をすすめていきます。リハビリスタッフ、看護師の皆さんも共に働き医師の皆さんもそれぞれに見守って頂いています。保護者の皆さんが子どもたちに声をかけその様子を見守り、ちょっとした表情や仕草にも目をとめ職員の方にその報告を行います。子どもを通しての保護

者としてこの喜びの輪を広げる務めを私たちは共に担っていきたくと願います。

「最も弱く人々の援助なしには一日も生きることでできない重荷をもった利用者が私達の真ん中にあり、利用者を中心で保護者、ボランティア、専門スタッフ、更に運営にあたるすべてのスタッフを支持して久山療育園の働きを支えて頂く地域の皆さん、教会、キリスト教学校等あらゆる力が結集されている」そのことの具体的な証の場であるからです。まさに神様がこの食卓に共にいて頂き祝福を注いで頂いています。そのことが私達に喜びを与えて頂いているのです。

新約聖書の中にはイエス様が多くの人と食事をとられる場面が数多くあります。多くの飢えて疲れている人々へ神様に祈りをささげてパンと魚をお与えになったこと、弟子たちには食事を与えなさいと命じられたこと(マタイ14章)、当時の社会で差別される人々にさげすまれ相手にされなかつた徴税人や罪人と共に食事されたこと(マタイ9章)等。

イエス様は最も弱い立場にある人々、最も弱くされている人々こそ神様の祝福が豊かに注がれていることを身をもって示して頂きました。丈夫で強い人、自らを誇り高ぶる人、憐みでなく生贄を望む強い社会を望む人々は久山療育園の「喜びに満ちた食卓」が目指す社会とは、全く異なる人々であります。

「食事を与えなさい」このイエス様の言葉に忠実に従う者としてこの喜びの輪を広げる務めを私たちは共に担っていきたくと願います。

理念と展望

「開園祭の意義についての再吟味」

理事長 宮崎 信義

久山療育園重症児者医療療

育センター（久山療育園）は1976年9月に開園しました。1976年9月に開園しました。1977年9月23日は開園1年を過ぎ、支えてくれた多くの人々に対しての感謝、重症児者への理解を深めることを目的に第1回開園祭が行われました。その後毎年開催され、今年第43回となります。職員と保護者は勿論ですが、地域の方々や支援者も多く集って下さっています。この機会に開園祭の意義を再吟味し、重症心身障害施設事業の今後の方向性を見定めたいと願っています。

参加しておられました。

参加者については、多くのレギュラーボランティアの方々の他に、学生さんの参加が目立ちました。また例年と同様に地域や教会、元職員などの多彩な方々が参加して下さいました。特に、既に愛児を天に送られたご家族も参加され、こちららも癒される思いが致しました。

■開園祭のテーマ

これまでに掲げられたテーマを以下に示しますが、そこから当センターが時代の流れの中で理念に従って、「重症心身障害児(者)と共に」「重症心身障害児(者)を中心」という思いが聞き取れます。

感謝礼拝にも多くの方が参列されました。商品バザーが活況でしたが、やはり重症児(者)とのふれ合いに重点が置かれ、近年では地域貢献の一環として、「救急蘇生法」や「災害食フェア」などの呈示も試みています。概括して重症心身障害児(者)やご家族、ボランティア、地域、そして職員やそのご家族が和やかに楽しそうに

1996年にさかのぼって提示致します。「重症児(者)の豊かな生活を求めて」、「重症児(者)に聞く」、「重症児(者)の命と暮らしの充実」、「重症児(者)を地域の中心に」、「新世紀の共生を求めて」、「新たに重症児(者)と共に」、「重症児(者)と共に希望に生きる」、「ひびきあういのち」、「共生と分

かち合い」、「全ての重症児者

と共に生かされる」ただの一人も見捨てられない福祉社会を」、「主に導かれて30年」真の重症児者の命の尊厳と共生、「新しい療育を新しい施設で」、「重症児者の癒しようをおいを」、「重症児者の生涯と共に(児者一貫)」、「重症児者の福祉共同体にかなう施設として」、「重症児者(ご家族)に傾聴する共同体」、「児者一貫した重症児者療育」、「障がい児者総合支援の実践」、「在宅支援プロジェクトの実現」、「在宅支援センター事業の推進」、「重症児者に必要とされる医療福祉の実践」、「創立40周年後の重症児者の必要に応える道の探求」、「新たな段階としての40年の導きを覚えて」。

■創立理念と社会福祉の在り方

①設立の目的：重症心身障害児に愛の手を」という精神で設立した。・家族も職員も地域も隣人となる。「重症児が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置付けられることを願う」↓久山町から地域へ、地域から久山療育園へ「出入り自由」の施設として。「従って、久山療育園は単なる収容施設ではなく、新しい福祉社会(福祉共同体)づくりの拠点である」↓

社会への発信。

②運営基本方針：「この働きは、社会のただ中で障害児と共に生きようとするイエス・キリストの愛の証しである。従って、久山療育園はキリストの福音を土台として運営されるべきではない」↓平和(キリストの平和)の地こそ重症心身障害児(者)の居場所となる。

③療育基本方針：「久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的ではなく、全人的にとらえる。そのために、それぞれ最善の職協力を進めることによって、その専門的領域の働きを全うしなければならぬ」↓久山療育園の療育「の再確認と医療マイノリティに基づく生命の尊厳を支える」QOL(生活の質・生命の質・人生の質)重視。

■創立理念と感謝礼拝

感謝礼拝(礼拝・ボランティア表彰・職員永年勤続表彰)は、創立に導いて下さった神様への感謝と、支えてくれた人(職員・ボランティア・地域の方)への感謝を表す、開園祭の中心となる式典です。創立理念と共に創立聖句として常に覚えていた新約聖書からの言葉は、コリントの信徒への手紙II 4章18節「わたしたちは見

えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」をいつも覚えて参ります。

■重症児(者)とのふれ合い

ふれ合いは、重症心身障害児(者)をもっと親しく知って頂くために、「公開療育」「展示」「作品販売」などが企画されています。

■バザー(食堂バザー・模擬店・チャリティーバザー)

バザー(食堂バザー・模擬店・チャリティーバザー)は、地域や習慣の変化から縮小傾向にあります。バザーは、地域の人々への感謝とゆっくりと久山療育園で過ごして頂き、施設への理解を深めるための催しでもあります。

■おわりに

これまで機関誌「愛の手を」では、初ページの巻頭言に続いて、2ページに「主張」を掲載させて頂きましたが、今号から社会観や生命観の変化を考慮して「理念と展望」の欄としたいと思っております。この主旨は、理念を継承し「重症児(者)と共に」在り続けたいという願いからです。

人のからだと病氣

「呼吸の不思議」

センター長／理事 岩 永 知 秋

■呼吸と心とのつながり

日常いのちを支えている呼吸ですが、私たちはふだん呼吸をしていることを意識しません。でも、深呼吸やあくび、ため息、過呼吸など、呼吸を意識することがあり、これらの行動は心象風景とも関係しています。ヨガでは呼吸法を大事にしていると聞きますし、過換気症候群は心身症の要素や心理的背景を持つものが多いようです。一方、呼吸の表現にも面白いものがあり、たとえば挙げるだけでも、息をのむ、息を殺す瞬間、息詰まる熱戦、息が長い、息切れがする、青息吐息など、比喩に用いられる呼吸がたくさんあります。

■息がうすいのは

呼吸の面白い点は、普段意識をしなくても私たちは無意識に呼吸をしている半面、意識をして呼吸を変えることが可能な点です。この点、心拍や脈拍と大きく異なりますね。もちろん、忍者やスポーツなどの達人ともなれば、多少ともこれらを変えることが可能かもしれませんが、呼吸のよ

うに意識して何秒も何十秒も心臓の動きを止めることはできません。これは私たちの脳の延髄というところにある呼吸中枢が、大脳の指令によっても影響されることによります。それでは人間はどれくらい息止めができるのでしょうか。1993年アレハンドロ・ラベロという人は6分41秒の間、息を止めたそうです。また、フリーダイビングと呼ばれるスポーツがあり、重りをもつて30秒くらいで潜水し、3分くらいで浮上してきます。ジャック・マイヨールが有名ですが、たとえばストリーターという女性は2002年水深160mまで潜水できたそうです。潜水する直前に過呼吸を行うのですが、深呼吸を何度も何度も行いながら、肺から二酸化炭素を追い出すのです。息こらえが我慢できなくなるのは、二酸化炭素がからだにたまり、呼吸中枢を刺激するからなのです。これはエベレストへの無酸素登頂などでも行われる方法です。でも迂闊にやると失神したりしますから、皆さんは決して真似をしないでください。

■肺のありようと、守られている肺

さて、なぜ肺は左右2個あるのでしょうか。眼、耳、腕、足など2個ある部分がありますね。内臓では大脳、腎臓、副腎などが1対ある臓器です。これに対して、心臓や肝臓、すい臓などは1個だけです。2個あるということはリスクを分散している、つまり片方が働かなくなった時他方が一人で頑張ることになります。急にこのようなことが起こると生命には危機が迫ることがありますが、一方時間がかかってこれらの変化が起これると、人間の身体は片方だけでも生命を営むことに適応します。なぜ1個だけの臓器と2個(1対)ある臓器になったのか、神のみぞ知ることです。また、肺はよく見ると左右が非対称です。右の肺が大きく、左の肺は小さくできています。心臓が左寄りに位置することと関係があるようです。詳しく見ると右の肺は大きく3つに分かれており(上葉、中葉、下葉)、左の肺は2つです(上葉、下葉)。それに応じて気管支の配置も右と左では異なります。気道異物、例えばピーナッツなどは右の気道・肺に落ち込みやすいのですが、それは左に比べて右の気管支が、より下に向かう

角度が大きいためです。誤嚥性肺炎は左右どちらにも起こりますが、人は立ったり座ったり、あるいは寝ている時も肺の下のほうがやや低いので、当然肺の上よりも下のほうに、また体の前面よりも肺の背面側に起こりやすい性質を持っています。

肺や心臓は胸部と呼ばれるからだの部分にあり、外側を左右それぞれ12本の肋骨から守られています。頭部も頭蓋骨という頑丈な骨で脳が守られていますね。生命により直結する部分がより厳重に守られていることとなります。胸部も頭蓋骨のような骨ばかりで覆われていると、からだとしてとても動かしにくくなるため、このような構造になっているのだと思います。一方、カメなどは堅い甲羅で覆われており、これは肋骨が変形したものだそうです。ヒトでは首の部分やおなかの部分は防御が弱いところですが、その分動きの自由度が高くなっています。

■呼吸の回数といのち

私たちはどれくらい呼吸をしているのでしょうか。計算してみましよう。1分間の呼吸数を15回とすると、1日に21,600回、1年で約800万回、人生70年とすると約5.6億回の呼吸回数となり、1回に呼吸する量

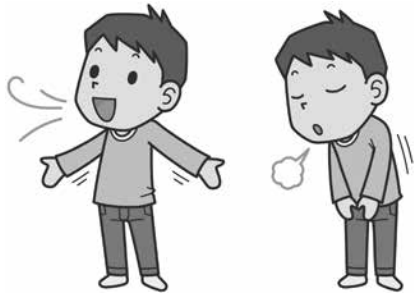
を500mlとすれば1分間に7.5ℓ、1日で10.800ℓ、1年で400万ℓ、人生70年で3億ℓとなり、東京ドーム4分の1個分となります。生物学者の本川達雄先生は「ゾウの時間、ネズミの時間」という有名な著書の中で、哺乳類はからだの大きさによらず一生のうちの心拍数、呼吸数は一定であるという仮説を提唱しています。心拍数は一生で20億回、呼吸数は一生で5億回というものです。そのうえで、生理的時間は体重の4分の1乗に比例すると述べています。数字で書くと少し難しいですが、要するにネズミの一生は短く、ゾウの一生は長いけれども、身体の大ささに応じて過ぎていく時間は異なると言っています。たとえば、同じ1分間でもネズミの過ごす時間はきわめて濃密に過ぎていき、ネズミにとつてはとても長いけれども、ゾウの過ごす1分間はあつという間なのです。ネズミはゾウよりも短命ですが、この時間感覚の違いを考えるとネズミが不利だとは言えないですね。それこそ哲学的な問題ではないでしょうか。大きく言えばヒトもこの法則に当てはまるのでしようが、個別性が高く一概には言えないと思います。

■鼻による加湿と呼吸の通り道

私たちが吸う息は鼻から吸ううちにすぐ加湿されます。鼻の奥には血管がたくさん分布して、そこから水分が供給されるからです。ですから、風邪をひいて鼻が詰まると、口呼吸となり、口だけの呼吸だと気道に入る空気が加湿されません。口からだけの呼吸では口の中は乾き、また乾いた空気が気道に入ると気道を守る仕組みが弱くなり、す。ちなみに口呼吸ができるのはヒトだけだそうです。ヒトは体温の調節を呼吸のほか、皮膚からの汗などで行っていますが、イヌなどの動物は呼吸による体温調節が主ですから、体温が上がるとハーパーと浅く速い呼吸で体温を下げるようにします。

できるのは、物を飲み込むときに喉頭と呼ばれる部分に上がり、気道に喉頭蓋という蓋がかぶさるためです。これが老化や病気によりうまく蓋ができないと、誤嚥という現象、つまり飲食物が気道に入り、肺まで到達すると誤嚥性肺炎を起こすことになり、す。重力の関係でこの肺炎は肺の下の方、また背中側の肺に起こりやすい傾向があります。

■呼吸を大切にしよう
もの本によると、「いのち」は「いきのち」、つまり「息をしているうち」という語源があるそうです。「生き物」とは「息をしているもの」でもあります。呼吸を大切に。



教 社
キリスト 会 福 祉

「第36回バ福協職員研修会を振り返って」

理事長 宮崎 信義

第36回バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会(バ福協)職員研修会は、2019年8月5〜6日にキリスト者奉仕会が担当し、「かんぼの宿柳川」(福岡県柳川市)で行われました。参加者は50名で久山療育園からは13名が受講しました。基調講演が、下稲葉康之先生(栄光病院ホスピス主監)による『豊かな生・豊かな死』でしたので、今年の焦点は命の尊厳、児童・高齢者・障がい者一人一人の存在の尊厳となりました。以下に基調講演とパネルディスカッション発題など協議された内容をご報告いたします。

第36回バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会(バ福協)職員研修会は、2019年8月5〜6日にキリスト者奉仕会が担当し、「かんぼの宿柳川」(福岡県柳川市)で行われました。参加者は50名で久山療育園からは13名が受講しました。基調講演が、下稲葉康之先生(栄光病院ホスピス主監)による『豊かな生・豊かな死』でしたので、今年の焦点は命の尊厳、児童・高齢者・障がい者一人一人の存在の尊厳となりました。以下に基調講演とパネルディスカッション発題など協議された内容をご報告いたします。

基調講演の要旨は、栄光病院の紹介、特にお看取りした幾人かの方々(死の前に一度ウエディングドレスを着たい16歳の女性、1歳半の子供を遺して立つ母親、結婚式を挙げられなかつたご夫婦の結婚記念式など)、豊かに生きられ、豊かに死を迎えられた終末期の方に注目して主題を語られました。

② コミュニケーションのころとして、(1)イエスを見る「心」(病める人への憐れみと癒し、イエス様の「内臓がちぎれるほど」の憐れみ。そして(2)主イエスを行動に駆り立てたのは、どうにかして助けてやりたいと、その腹の底から湧き出す「あわれみ」の思いでした。

基調講演「豊かな生・豊かな死〜ホスピスの現場から〜」

④ 「患者さんが先輩」ということ。「がんになってみて、初めてわかることが余りにも多すぎます」(自らががんになつた看護師のことば)、「傾聴する姿勢」「受容する姿勢」「仕える姿勢」の多くを学ぶこと。そして私たちが駆りたて

基調講演「豊かな生・豊かな死〜ホスピスの現場から〜」

① ホスピスとは、末期患者とその家族を、家や入院体制のなかで医学的に管理するとともに看護を主体とした継続的プログラムの持つて支えていこうというもので、さまざまな職種の専門家が組まれたチームがホスピスの目的のために行動する働きです。その主な役割は、末期ゆえに生じる症状(患者や家族の身体的・精神的・社会的・宗教的・経済的な痛み)を軽減し、支え励ますこと(全米ホスピス協会)

「Passion」(熱情)深い「憐れみ」とは、ヨハネの手紙I 4章11節から、「神様がこれほどまでに私たちが愛して下さつたのだから、私たちも互いに愛し合うべきです」。ホスピス病棟は、まさに人生そのものを生きたこと・死ぬることを学び、做う人生道場です。

講師の下稲葉康之先生(栄光病院ホスピス主監)は、1938年11月12日に鹿児島市のご出身で、1963年に九州大学医学部卒業後、内科

講師の下稲葉康之先生(栄光病院ホスピス主監)は、1938年11月12日に鹿児島市のご出身で、1963年に九州大学医学部卒業後、内科

講師の下稲葉康之先生(栄光病院ホスピス主監)は、1938年11月12日に鹿児島市のご出身で、1963年に九州大学医学部卒業後、内科

パネルディスカッション「キリスト教社会福祉の現場から」
 「実践報告Ⅰ」障がい者福祉の立場から「久山療育園創立理念の継承と浸透」

発題者：宮崎信義(久山療育園 重症児者医療療育センター)

①設立理念に従って：(1)「設立の目的」から、「重症・心身障害児に愛の手を」から「重症児者と共に」在宅及び入所重症児者の必要に聴く診療計画・個別支援計画が起これ実践に務める。「重症児が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置付けられることを願う」ことから「在宅支援センター」の建設・開設(2015年7月)が実施され、豊かな生活空間(グループホーム「重症者ホームひさやま」とセンターによる医療支援が行われている。「久山療育園は単なる収容施設ではなく、新しい福祉社会(福祉共同体)づくりの拠点である」と示された理念に導かれ、広く地域福祉に働く「在宅支援棟」も機能している。(2)「運営基本方針」から、「久山療育園はキリストの福音を土台として運営されるべきではない」という理念から、「ミットレーベンネットワーク」・諸教会・保護者会

との協働によって園の方向が示されている。(3)「療育基本方針」から、「久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的ではなく、全人的にとらえる。そのため、それぞれ最善の職

その専門的領域の働きを全うしなければならぬ」という言葉から、「久山療育園の療育」の再確認と医療マインドに基づく生命の尊厳を支え、QOL(生活の質・生命の質・人生の質)を重視している。

②キリスト教社会福祉の実践：(1)問われる事業体と社会のありかた。(2)私たちが「弱い」あるいは「弱点」だとおもえるところに「神の力」「キリストの力」が働かれる。「障害は「弱さ」だが「弱み」ではない。・・・(3)「聖書が示す「共生」とは、ディートリッヒ・ボンヘッファーは「弱い者や見栄えのしない者、見たところ役に立たない者をキリスト者の生活共同体から締め出すことは、まさに貧しい兄弟の姿をとって戸を叩き給うキリストを締め出すことを意味する。」と語っている。(4)共生への促し：コリントの信徒への手紙一13章13節「このように、いつまでも存続する

ものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。」

「実践報告Ⅱ」児童福祉の立場から「これからのキリスト教保育の方向性」

発題者：高木かおる (相愛保育園園長)

①キリスト教の基本理念をどう伝えるのか。支えつつ支えられ、今を共に生きる社会の実現。(ヨハネによる福音書 13・34・35)。保育所事業からの社会貢献等。

②保育士不足の問題：「みなし保育士」の認可。しかし専門的知識が不足。↓年に2〜3回の職場内研修を実施。相愛保育園(定員100人)↓90〜80人の受け入れ現員。相愛ひめぎ保育園では定員60人。
 ③子どもを大切に保育：(1)罰を与えない(体罰やことば)。保護者に対する相互理解。(2)保護者を支える：耳を傾ける。生活を知る。祈る。責めるより支えることを。(3)保護者に対する要望：早めに助けを求めるように。

「実践報告Ⅲ」障がい者福祉の立場から「法人内研修を通じて」

発題者：沖中久美子 (キリスト者奉仕会「たんぽぽ」 総括責任者)

①「キリスト者奉仕会」の基本理念：(1)「障害」は尊厳ある人格の一つの個性です。私たちは「互いに愛し合いなさい(ヨハネ15・12)」(定礎)と言われたキリストの言葉に従い、「障害」のある人が、自己の尊厳性を保ちながら、地域社会のただ中で一市民として、平等に生きてゆくことを目指します。

(2)わたしたちは「障害」がある人もない人も共に地域社会の中で、自分らしく当たり前に生活していける社会の実現」に向けた拠点として活動していきま(3)わたしたちは社会の中で差別・抑圧され、弱い立場に立たされている方々と出会うことを基本とし、その方々の生る声に耳を傾け、そこから学ぶ視点を大切にします。(4)わたしたちは「障害」のある人たちの基本的人権を尊重することを第一とし、そこで働く者も含めて共に生き活きとできる場であることを目指します。

②階層別研修：(1)新人職員研修：各事業の説明及び体験、理念の学習等。(2)常勤職員研修：

理念の共有、講師を招いた学習会等。(3)責任者研修：理念の共有、施設見学等。(4)管理職研修：講師を招いた学習会等。(5)職員研修会：講師を招いての人権学習、事業理解を深めるための学習等。

「実践報告Ⅳ」高齢者福祉の立場から「地域とのかかわり、特養での看取り、多様な人々があるのままで支え合う地域」

発題者：上野浩二 (バプテスタホーム施設長)

①地域とつながる必要性：施設に入居されることで、住み慣れた地域との繋がりが希薄になる現状にある。特別養護老人ホーム等の地域に存在する福祉施設は、その地域においてどのような役割が求められているのか考えるとともに、その役割を遂行する使命を担っている。介護職員が地域との関わりから地域の特性を知り、利用者のツールを知る。

②特養での看取り：施設で人生の最期を迎えることや、そのためのケアを行っています。高齢化が進む現在、施設での看取り介護のニーズが高まっている。看取り期の判断、カンファレンスの開催、亡くなる際の付き添

い、施設内でのお見送り。
③地域という場で人がつながる：今日の福祉課題の多くが、つながりの喪失、社会的孤立と

いったところから生まれている。パプテストめぐみ会では、在宅や施設も含めて利用者が地域とつながりを保って暮らし続けられるよう、地域と介護施設との連携を進めている。地域に施設があることだけでなく、そこで働く職員の姿を見せて、建物ではなく人の姿として認識してもらい、福祉施設が積極的に地域と関わることで、住民たちも施設を知り、安心して受け入れてもらえる。

④多様な人々があるのままで支えあう地域：世代や高齢者、障害者、児童を縦割りにしない、地域ぐるみのケアのあり方が求められている。ケアをする側、される側もはつきりとは分けず、それぞれが個性や特性を持ち寄って、支え合える共生型のケアが今後重要となる。福祉施設

のあり方が、高齢者、障害者、児童といった縦割りを超え、さらに、お年寄りや介護に携わる人たちが地域の中に出ていき、地域の人々との交流を深め、地域のさまざまな人々が福祉施設に出入りすることで、お年寄り

だけでなくみんなが暮らしやすい町づくりにつながっていくのではないのでしょうか。

「実践報告Ⅴ」障がい者福祉の立場から「悪性腫瘍を発症した利用者の緩和ケアに取り組んで」

発題者：百本利雄
（久山療育園看護師長）

①目的：重症児者の死因は、呼吸器系合併症によるものが多い。近年は高齢化と共に悪性腫瘍による死亡例も少なくない。実践報告として、悪性腫瘍を発症した利用者に対して緩和ケアに取り組んだ。事例報告：40歳男性、脳性麻痺・精神遅滞。身体機能は、座位移動可・つかまり立ち可・発声あり・食事は専用皿でスプーンをセッティングすると自力摂取可能・オムツ使用

服を脱ぎ両手を叩いてパニックを起こし手足の打撲や擦過創を作る元気がない利用者だった。

②経過：2018年5月スキルス胃がん（悪性度が高い急速浸潤型）の疑いを指摘され主治医や多職種参加のカンファレンスを重ねた。職員へのグリーンケアに基づき、H氏が望んでい

人的に捉え職員全員で共有した。2018年3月、嘔吐が見られるようになり、5月ごろ嘔吐・発熱を繰り返し、専門医を受診し、スキルス胃がんと確定。6月、主治医や他職種が参加してカンファレンスを行った。完治は見込めず、(1)痛みや不安を取り除く緩和ケアを行って行くこと、(2)本人が望む生活を続けること、(3)急変時の対応などを確認した。病棟職員へは、「H氏が望むこと」をカードに書き込んでもらい、それを「身体面」「精神面」「社会面」「スピリチュアル面」と表示し分別掲示した。スタッフ全員で共有しその中から、職員が出来る支援を行った。これは亡くなった後の職員へのグリーンケアも考慮して行った。実践した内容：近くの温泉施設での入浴、バスハイクでは川遊びへ出かけ楽しい体験をしてもらうことが出来た。日常では、園内散歩に出かけ他部署スタッフとの交流を図った。疼痛緩和の処置としてはつか水の湿布も行った。これは家族と一緒にでも行い、痛みの軽減に努めた。ご家族への対応としては、以前は、面会外泊などはほとんど見られなかったが、胃がん発症後の病状説明では、母・姉ともに

涙ぐみ「こんなことならもっと早く面会や外泊させておけばよかった。」「痛い思いはさせたくない」との言葉があった。その後は頻繁に、母だけでなく遠方にいる兄弟も来られ、本人と家族だけで家族宿泊室に宿泊しゆつくりとした時間を過ごすことが出来た。また、最後は自分たちも看取りたいとの思いがあり、家族が交代で園に宿泊された。後日のデスカンファレンスでは、「弱っていく姿を見たらつらかったが、みんなが関わりを持ってよかった」「定期的にカンファレンスをしてきたことでスタッフ間の情報共有が出来た」「長期の点滴治療がなされなかったことで自由に動くことが出来て良かった」等の意見が見られた。

③考察：重症児者は自ら痛みや不安を訴えることが難しいため、いつも近くにいる病棟スタッフが本人の嗜好や意思を推測し家族の思いを組んで、H氏に痛みがなく、自分らしく、そして楽しく過ごせることを目標に取り組んだ。カンファレンスを行ない、それを「情報ファイル」を使用することで、食事や入浴といった生活支援情報が集約されたことで、本人へのケアの情報管理を一元化し、職員全体がH氏にどのようなケアや処置がなされているのかを把握しやすくなった。面会時は家族宿泊室の利用や病棟では個室を利用して家族だけで過ごせる空間を提供し、面会時も病状のことだけでなく病棟での日々の様子なども伝えるようにした。また、家族が出来るとはつか水のシップの処置を一緒に行ってもらった。

④今後の課題：日頃からパニックで発声や手を叩く動作があったため、痛みの為の発声なのか、動きなのか不明な事も多く、痛みの表現を言語や数値ではなく、人の顔の表情によつて評価する、疼痛フェイススケールも用いたが、職員間で痛み・不穏の捉え方にばらつきがあった。

おわりに
以上、児童福祉・高齢者福祉・障害者福祉ともに大切な「いのち」や「存在のかけがえのなさ」について聴き、語り合う大切な時間を与えられました。それぞれの事業体に帰ってからも、学んだ成果を生かして参りたいと思います。

ご協力ありがとうございました

(2019年6月1日～8月31日) 敬称略

【法人】

一般献金

安部聖子、飯田節子、活水同窓会北九州支部、(株)西部クリーン、(株)養、(株)ロジテム九州、川野三重子、栗田昌枝、杉内勝彦・久子、添田次郎、手作品売上げ、西加代子、日本バプテスト連盟恵キリスト教会女性会、林文生、福岡地方連合女性会、福岡南教会婦人会、豊前キリスト教会、香港メソジスト教会香港堂、山口正夫、嘉久明子

(以上3, 265, 502円)

【重症者ホーム】

一般献金

自動販売機売上献金、飯田節子、井手伸昌、改築コーヒーボランティア、久山療育園献金箱、ボランティアアコーヒー

(以上1, 112, 693円)

【施設】

一般献金

飯塚バプテスト教会、大山翔也、小副川時子、榎谷悦子

(以上33, 500円)

献品

阿部初美(貝殻)、池松敦子(紙細工他)、大坪夏江(はがき)、草場年子(麦茶)、久保山信・剛(はがき)、小森悦子(台ふき他)、堺きよみ(タオル)、柴田知子(とろみ食品)、園田敦子(布ぞうり)、高瀬孝介(バスタオル他)、日本バプテスト連盟恵キリスト教会(枕カバー他)、原田製油(有)(納豆)、瑞穂キリスト教会(タオル他)、嘉久明子(梨)

【ミットレーベン・ネットワーク】

一般献金

ミットレーベン・ネットワーク(ワークキャンプ街頭募金)

(以上44, 000円)

2019年度 クリスマスのご案内



2018年クリスマス礼拝より

○入所クリスマス

12月17日(火)

10:30分より

○久山療育園クリスマス礼拝

12月19日(木)

13:30～14:30

*礼拝後、祝会実施予定

○通所クリスマス

12月20日(金)

10:30より

*多くの皆様のご来場をお待ちしております。

メモ帳

【7月】▽2日 福岡市就労支援センター職員見学(4名)▽3日 看護協会主催ふれあい看護(高校生6名参加)▽5日 七夕行事(入所)▽6日 グループホームひさやま開設祭▽7日 中久原祇園神輿来園▽9日 今津特別支援学校PTA見学(40名)▽11日 ロジテム九州来園(4名)▽12日 認定看護師研修開校式▽16日 余暇活動(スマイリングホスピタルジャパン)▽17日 西南学院高校母の会見学・ボランティア(15名)▽19日 西南学院中学校・高等学校見学(39名)▽20日 こひつじの園ランチカフェ参加▽22日 松谷様他9名見学・ボランティア▽23日 福岡特別支援学校終業式▽25日 園内研修救急蘇生法▽28日 東久原こども神輿来園▽29日 嘉穂特別支援学校見学(13名)

【8月】▽2日 誕生会、親交会夏季行事▽6日 余暇活動(スマイリングホスピタルジャパン)▽8日 福岡女学院中学校・高等学校夏季修養会(34名)▽9日 ボランティア講習会▽11日 東久原夏祭り参加▽17日 こひつじの園ランチカフェ参加▽19日 ミットレーベンネットワーク主催第30回ワークキャンプ21日まで(122名参加)▽22日 福岡県立直方特別支援学校職員見学(13名)▽23日 令和元年社会福祉施設指導

職員の異動

(2019/7/1～9/30)

【採用】

- ▽岩永知秋(センター長)7/1付
- ▽中村晴光(事務局長)7/1付
- ▽梅木光男(顧問)7/1付
- ▽内倉明日香(看護師)7/1付
- ▽中村美保(保育補助)7/22付
- ▽平川美香(看護師)8/1付
- ▽牧島なつみ(看護師)8/1付
- ▽塩井貴文(療育員)8/1付
- ▽石井佳代(歯科衛生士)8/1付

【退職】

- ▽井上幸子(療育員)9/30付
- ▽吉村尚子(療育員)9/30付

ひかり棟より

プール活動！

夏と言えば…そう、プール!!ですよね♪ひかり棟では、8月7日と22日にプール活動をしました！私は7日のプール活動に参加させていただきました。初めて利用者の方とプールに入るため、楽しみな気持ちとドキドキと緊張感もありました。利用者の方とアンパンマンの音楽に合わせて1・2!!と元氣よく準備体操をしてから…足から水を少しずつかけると、「きゃー!!」と大きな声を出して笑っていたり、びっくりにした表情をされた利用者の方もいたりして、いざプールの中へ!!最初は緊張していた方も、浮き輪やスタッフの腕に身を任せてリラクセスして水を楽しまれました。ホースの水で作ったアーチをくぐったりしました。今回のプール活動に参加した利用者の方には、久しぶりに泳ぐ方もいらつしやり、スタッフは目を輝かせて見ていました。プールに入ったときは険しい表情でしたが、慣れてくるとゴーグルをつけ、スタッフを目にかけて一生懸命泳いでいました☆得意な方もいれば、苦手な方もおられ、プールに入っても目を開けず険しい表情をしています。それでも少しずつ慣れてきて浮き輪をつけてプールの真ん中あたりから、名前を呼んでいるスタッフのところまで足を一生懸命バタバタさせながら泳いでいました！プール活動の最後は、他のスタッフに水を



かけられてびしょ濡れになって終わりました(笑)利用者の方と一緒に入ることができて、楽しい夏の思い出になりました☆来年も一緒に入ることができたら良いなと思っています!!

(ひかり棟介護福祉士
長嶋奈美)

♪盆踊り♪

蝉の声の響き渡る8月の暑い夕方、東久原の盆踊りへスタッフや御家族・11名の利用者の方々と共に東久原の盆踊りへ参加してきました。

太鼓のリズムや音楽に合わせて櫓の周りを地域の方々と共に踊り、出店の美味しそうな匂いを感じながらくじ引きや輪投げ等、体験してきました。

暑いながらも日陰の風に心地良さを感じながら園内の行事とはまた違った雰囲気を楽しんでました。…たこ焼きやポテトフライも楽しんでました

(ひかり棟 サービス管理責任者
嘉村由香)



外出サービス

7月23日にひかり棟の裕美子さん、幹男さん、スタッフ5名でイオンモール福岡に行ってきました。バスの中から外の景色を眺め、モールの中では行き交う人々や色々なお店のカラフルなディスプレイを興味津々に見ていました。自分のお洋服を買い、普段とは違った食事、デザートには大きなパフェを食べました。帰りは今日一日のことを味わうかのようにウトウトし、楽しい一日を過ごしました。

(ひかり棟介護福祉士 多久島真理子)



めぐみ棟より

タオルたたみに挑戦しています！

毎週、水曜日めぐみ棟の弘行さんにとって、楽しみな日なのです！！

ボランティアの方と一緒に、利用者の方達が使うタオルをたたむお仕事を楽しみながら頑張っています。

初めは、緊張気味で左上肢を上手く前へと伸ばすことが難しかったけど、毎週タオルたたみを通して肩からしっかり伸ばせるようになってきました。車椅子の台の上にタオルを用意すると弘行さんは得意な表情で前に手を伸ばし、タオルの端を掴んで自分の胸元へと動かしタオルをたたむ。一生懸命頑張っている姿に、ボランティアの方達や介助者に褒められることで自信につながっているようです。

今では、タオルたたみで練習している左上肢を使って、電動車椅子を自ら操作し運転して2Fにあるボランティア室まで行き、お仕事を頑張っています！！ボランティアの方とも仲良くなり毎週会うことがとても楽しみ＆励みになってきているようで、タオルのたたむ枚数も日に日に増えてきています☆
病棟外の方達とのふれあい関わりを大切にしながら活動を見守っています！！

(めぐみ棟保育士 田崎加奈子)



七夕会

7月の行事は七夕会を行いました。七夕と言えば織姫と彦星ですが、今回の寸劇では男女が逆転した織姫と彦星が登場しました。利用者の皆さんは男女が逆転した事に加え、ブロードの織姫様が珍しく感じられたようで、驚く利用者さんや笑顔の利用者さん、色々な表情がみえました！また、七夕会に備えて事前に考えていたお願いごとを、一生懸命作った七夕飾りと一緒に、大きな笹に飾り付けました。会の最後には、たなばたさまを歌い、和やかな雰囲気でお会を締めくくりました。あつという間のひとときでしたが、楽しい時間を過ごすことができました！

(めぐみ棟看護師 占部 晶)

ワークキャンプでのふれあい活動

8月19日～21日にミットレーベン・ネットワークのワークキャンプが開催され、20日には、めぐみ棟でもふれあい活動が行われました。参加された方々からの歌のプレゼントに、利用者の方々は耳を澄まして聴き入っておられ、和やかな空気であふれあいの時間がスタート。今回は利用者さんと子どもたちがグループをつくり、息を合わせて『魚釣り』を楽しみました。この時遊んだ魚は、子どもたちが描いてくれたアイデアあふれる魚たち。同じグループになった子どもたちと利用者さんは、手を握り合って竿の持ち方を工夫したり、「こんな魚が釣れたよ」と紹介したり賑やかな交流の場となりました。遊んだ魚たちはその日のうちに、病棟に飾り付けられ、「魚釣り、楽しかったね」「絵が上手だね」と話の種になり、病棟内をキラキラと明るくしてくれました。利用者の方々の笑顔がはじけた素敵な夏の思い出。

(めぐみ棟保育士 河野敦美)



通所で頑張っています

あんなことやこんなこと療育活動の紹介

通所では日中活動の場として利用者様が在宅から通われており、日々バラエティに富んだ療育活動を提供しています。今回はその療育活動を一部紹介します。



…ころころアート…
絵の具を付けたボールを転がせて大きい用紙に模様を描きました。ボールの転がる様子に目や肌で感じて頂けるように工夫しています。



…パラバルーン…
大きなカラーポリを広げてヒラヒラと揺らしました。風とともに近づいてくるパラバルーンを眺められるようにパラバルーンを音楽に合わせて



…野菜スタンプ…
本物のお野菜を使って野菜の香りや感触、野菜の中身をスタンプにしてみました。



…ボールスライダー…
ボールの上をクッションチェアで滑り台！ガタゴトした振動を体験して頂きました。



…あおぞら図書館…
園庭の木陰で気候に触れながら絵本の読み聞かせをしました。

療育を担当するスタッフが一つひとつアイデアを膨らませながら行っている療育活動。今後も利用者様に有意義な時間を過ごして頂けるように私たちも切磋琢磨していきます！

(通所介護福祉士 松元りか)

「宇宙^{そら}の紹介」

児童発達支援事業宇宙は満一歳から年少までのどりーむ組と中年長組のあぼろ組で構成されています。現在どりーむ組では5名のお子さま、あぼろ組では4名のお子さまが利用されています。どりーむ組ではお子さまが活動を受け入れやすい様に小さな刺激から体験をして頂いています。初めて体験することが多くて泣いてしまう事もありますが、お母様方や保育士とゆっくり何度も体験する事で笑顔が見られる様になってきました。あぼろ組では戸外に出る機会を作り自然に触れたりお買い物体験をしたりと体調を考慮しながらチャレンジをしています。年長さんになると週1回の単独利用日が始まり、保護者と離れて保育士と活動を行い得意な事や苦手な事にチャレンジしながら興味関心の幅を広げ就学後の生活をイメージしやすい様に取り組んでいます。活動を通してお子様や保護者の方々が笑顔になれる様日々を育み、1歩また1歩とゆっくり歩めるようにサポートしております。

(通所保育士 原田太二)



「久山療育園に入職して」

4月1日に久山療育園に入職させて頂き、5か月が経ちました。40代で新卒にもかかわらず、支援させて頂ける環境を与えて頂きありがとうございます。

入職した当初は毎日が緊張の連続で、業務を早く覚えたいという焦りや看護師として働く事が出来る嬉しさで心落ち着かない日々でした。そんな時、先輩看護師の方々と他職種の職員の方々が「どう？大丈夫？」とゆっくりでいいから一つ一つが新人職員を育てようとしてくださっていることが伝わり、早く役に立ちたいと思います。4月はめぐみ棟で学ばせて頂き、5月から通所配属として頑張っています。通所で行われている療育活動を通して様々なことを学ばせて頂いています。利用者さんのそれぞれの生活環境や好きなこと、苦手なこと等を把握するにはまだまだの私ですが、通所での看護業務を通して利用者さんそれぞれの色々な表情を見る事ができて感動しています。利用者さんの日常生活に関わらせて頂き、それぞれの健康状態や精神的なペースを理解し、皆さんの訴えたいことや異常などこよつとした変化に気付くことができる看護師になれる様努力をしていきたいです。

私は以前、重症心身障害児の娘と在宅療養生活を送っていました。療育を受ける時の表情の変化に驚きました。娘にとって心と身体の成長を促してくれているんだなあとという感動は今でも心に残っています。そのような体験もあり、利用者さんと御家族が通所で過ごされる時間が安心して豊かな時となるよう看護業務に努めていきたいです。

(通所看護師 徳永律子)

重症者ホームひさやまより

4周年の開設祭

2015年7月1日にグループホームがオープンして今年の7月で丸4年が経ちました。毎年7月はオープンを記念して開園祭ならぬ開設祭を行なっています。今年も6日に実施しました。

行事の内容は、例年食事を催して下さいました。担当の職員も参加して、クイズの企画を持ち込み、6日にグループホーム内で行なう事が出来ました。本当に保護者の皆様には感謝です。ありがとうございました。

入居者、ご家族、職員、みんなが食事を囲んで楽しく過ごす事が出来ました。クイズでは、入居者の方たちの小さい頃の写真を持ってきて頂き、誰でしょうクイズを実施。すぐに分かる写真もあれば誰だろうと悩む写真もあり、その中に職員の写真も混ぜて楽しんで頂きました。

行事が終わわり一息つくともう4年が過ぎたんだなあと、感慨もありました。「来年は5年とまりがいいから大きなことをしようね。」と、保護者の方たちと話しながら、無事開設祭は終了しました。

これからも、5周年、10周年と迎えられるように、1日1日大切に過ごしていきたいと思えます。
(重症者ホーム サービス管理責任者 山口真一)



夏を満喫 そうめん流し

8月11日曜日、今年のホームのそうめん流しは室内で開催されました。今回は流しそうめんだけでなく、冷やしそうめんに合いそうな薬味、トッピングを各種用意して、それぞれ好きな『アレンジそうめん』を作れるようにしました。リビングでは準備が整いはじめ、各々甚平や浴衣に着替えてそろそろ集合かな？という時に、事件は起きました…！組み立てたそうめん流しの機械が動かない!! 仕方が無いので流しそうめんは諦めようとしていた時、病棟のスタッフが園の屋根裏にある大きなプラスチック製の筒を使つてはどう？と提案してくれました。それからは急いでその筒同士を繋げ、下に大きな受け鍋とザルを準備し、キッチンから水を流せば、簡易式とはいえ立派な流しそうめんになりました!

ご自分で上手にお箸を使つて麺を取る方、保護者の方が取っているのを待ちきれない様子の方などそれぞれ楽しまれたようで、ピンチを凌いだスタッフも一安心。好きな具材だけでなくつゆの配分にこだわる方もおられ、思い思いに美味しく召し上がられました。

夕方からは、衣装はそのまま皆一緒に東久原のお祭りに出かけました。地域の方々と盆踊りに参加した後、

お菓子の掴み取りやくじ引きをしたり、かき氷を食べたりされて毎年恒例のお祭りにとても嬉しそうな様子でした。一日を通して、思う存分夏を満喫できたホームの皆さんでした。
(重症者ホーム 介護福祉士 中村 心)



43年のあしあと

栄養課 中山裕子



久山療育園の食事②

食事体制の変遷 II

2008年、新舎となりこれを機に入通園同メニュー・調理とし、このため食事時間・作業面より職員食は廃止となりました。

食事形態は、開園当初「刻み食とミキサー食の2種、主食は軟飯と全粥、ミキサー粥の3種、同一分量」でスタートしたと思われませんが、開設3年目の1978年後半に、普通、キザミ、みじん、ミキサー食の4種、主食は普通、軟飯、全粥、ミキサー粥4種、量は特大・特小5区分へと細分化。

2010年、試行を経てムース食や胃瘻ペースト食を加えて、食事形態は咀嚼(かみかみ)、押し潰し(もぐもぐ)、ペースト(とろとろ)、ムース(ごっくん)、胃瘻ペースト食とし、より口腔機能に合わせ、柔らかさや粘度等、嚥下調整食を進化させていきます。

2015年頃より、食事の負担を軽減した「ポリウムダウン」「高栄養食(流動食)+食事」、逆に食欲はあるが体重減を目指した「ポリウムアップ

～食体制・嚥下調整食のあゆみ～

	開園 1976年	10年 1986年	20年 1996年	30年 2006年	40年 2016年	
施設		一部増改築	改築		全面改築	
入所食(床)	48-55	75-78	78-80	84	88+6	
通所食(床)	県委託事業(5)	モデル事業(15)	通園事業	地域支援事業	(20)	
ホーム(床)					昼食(10)	
職員食					廃止	
食事体制	3食+おやつ 刻み・ミキサー食に加え 普通・みじん食開始 量区分2-5	4回食制 独自のメニュー	食事形態変更(名称) 弁当・バイキング食	3食制 新食事形態導入 新調理基準	ムース食導入 お茶ゼリー開始 ATP法衛生管理	胃瘻ペースト食導入 経口経管併用食 記念日祝い ポリウム取組み
嚥下調整法	自然素材 葛・ゼラチン 寒天・片栗粉	トロミアブ 第1世代	とろみ 第2世代	とろみ 第3世代	ゾフイ①② ゾフイ7S ミキサーゼル	ゾフイ7G・U ミキサーゼル

し潰し、ペースト、ムース食が基本ですが、これに栄養強化のMCTパウダーやコンク添加、多種のアレルギー食、禁止食(主に嗜好上)、裏ごし指定等が加わり、多種多様の個別対応に調理業務も複雑化しています。利用者数は、入所88+短期入所6床、通所登録者71名、重症者ホーム10名在籍。基本の食事形態(主食・副食・分量)の上で個別指示は入所述べ176件、通所述べ79件です。(2019

年3月) 43年を経て 社会構造や医療福祉制度の変動と共に、栄養課給食室もハード・ソフト両面でまさに激変しました。 技術の進歩により高性能、効率的な最新機器、摂食・嚥下や調理に関する研究や文献も数多くなり、画期的ともいえるトロミ剤の登場(1991年)以後、増粘剤や半固形化剤の開発・進歩より嚥下調整食は進化しています。 40年前の困窮以後、依然、模索が続いています。確かに環境やハード面は充実しましたが、利用者様のニーズも多様化し、これに応えられているか悩みは尽きません。

今日まで「入通園利用者様の栄養と食」を担当させていただいていますが、一貫して「栄養面で利用者様の健康を守る」ことを第一と考え、「安全で新鮮で上質、栄養価値が高い食材を選び、疾病を予防し、健康を保持できる食事を提供する」役割、任務にあると思ってきました。その上で美味しく楽しい食事になるようにスタッフも努力してくれましたが、一般に好まれる濃い味、好きなメニューや華やかな料理からは遠かったかもしれません。医療制度・入院時食事療養Iの下で、安全・衛生面を最優先し、何より食事由来で健康を損ねる

ことがあつてはならない、生活習慣病は予防したいという想いがあります。 重症児者の方は個人差が大きく、適正体重、栄養量一つにおいてもなかなか決定できません。そして口腔機能面に問題があるため、メニューや食材も制限されます。個別に、この形状が合うと思われるも嗜好的に好まれないケースや食材・メニュー・調理も温度・時間経過によって味・形状は変化します。嚥下調整食とはいえ粘度・柔らかさは個人によって、またメニューによっても個々異なるといつても過言ではありません。技術面もさることながら時間的制約、作業量、マンパワー、経済性の壁をどう乗り越えるか課題です。

「成しえなかった多くのことは、次世代を担う方々に託したいと思います。そして、ひさやまで出会えたたくさんの素敵な方々に心から感謝します。



「配膳風景」

2019年開園祭のご報告

9月23日(秋分の日)、「第43回開園祭」が開催されました。開催直前まで台風の影響が懸念されていましたが、長く親しまれた「利用者とのふれあい」、「公開療育」、「バザー・模擬店」に加えて去年からの新企画である『地域貢献の健康フェア』では「救急蘇生法体験」に「血管年齢測定」も加わり、来園の方々、ボランティア、利用者の皆さんとご家族、職員合わせて800名近くが、久山療育園の一日を楽しく分かち合いました。(2019年度開園祭実行委員会)



雨でも元気に
お迎えしました！



子どもボランティアも
大活躍



記念式典でのボランティア
表彰



左から理事長、センター長、
ミットレーベン・ネットワーク会長



楽しく園内を回っています



血管年齢測定会場



救急蘇生法は幼児向けも
実施しました



パラバルーンを使った
「公開療育」



永年勤続職員表彰



毎年人気のバザー会場



カフェでは、
留学生ボランティアもお手伝い



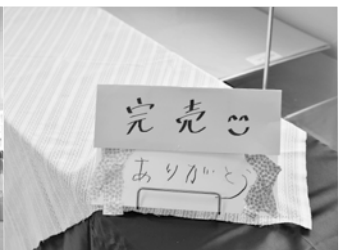
ゲーム大会
『ルーレットで遊ぼう』



外部からも多くの施設に
お店を出して頂きました



たくさんの方にご利用いただきました(食堂バザー)



多くのお店が完売。
ありがとうございました！

今年もご来園頂いた皆様、準備に関わりバザー献品を届けていただいた皆様、
前日や当日の運営に関わって頂きました全ての皆様に
ここに改めて感謝申し上げます。来年もより多くの皆様とお会いできますように！

第43回 開園祭表彰者

ボランティア表彰者

- 3000時間 吉富恵知子様
- 2000時間 井上安子様
- 1000時間 中原民子様
- 木戸美沙様
- 山口千恵子様

永年勤続職員表彰者

(敬称略)

- 25年 陣内晶子、波田 良
- 20年 金子政彦、荒金 幸
- 10年 大坪 愛、大坪壮志、末浦佐和子、中村愛、吹田智美、日高みどり
- 5年 石橋哲弥、桑原リサ、近藤美香、櫻井美千代、汐田美賀、高橋 愛、田崎加奈子、登本友花、中上真紀、中原絵美利、西田佳苗、松田真理、吉見知夏

勤続25年

入職して25年、紆余曲折ありましたが、皆様のご指導と先輩方の叱咤激励によりここまで来ることが出来ましたことに、心より感謝申し上げます。事務部で医療事務として配属されたのですが入職当初に約1か月間病棟・通所で研修させていただき、利用者さんや保護者の方と接してい

ろいような経験をさせて頂きましたが、利用者さんとバスハイクや散歩などした記憶が懐かしく思い出されます。業務としては、会計を経て医事を担当していますが、グループホームの開設に関わる等様々な経験をさせて頂き、現在は次期システム移行に向けた準備の真っ最中です。

日々の業務に追われ、責任を果たせているか疑問ですが、久山の理念を忘れず、利用者さん、保護者、ボランティアの皆様の力になれるように願っています。

(医事総務主任 波田 良)

勤続20年

20年前、まだ若かりし私は自分に自信がなく、やることなすこと空回り...と思うこともありましたが、しかし、そんな私に利用者・ご家族の方々が向き合ってくれ、私が今、ここでしなければならぬことを示してくださいました。

また先輩・同僚の方々も、扱いにくかったであろう私を温かく見守り、粘り強く関わってくださいました。おかげで、少しずつ仕事を任せてもらえるようになりました。久山療育園で試行錯誤しながら働く中で、様々なことが移り変わりました。変化の度に、私自身も変わってきたように思います。この20年で、とても大切なことを教えて頂きました。人は、関係性の中で学び、変わって

いくということ。私自身が多くの方々から支えて頂きながら、私も久山療育園に関わる方々の何かのお役に立つように学びつつ、心を込めて働いていくのだということです。

本当に貴重な20年、ありがとうございます。

(地域療育部長 金子政彦)

勤続10年

学生最後の介護実習をめぐみ棟でさせて頂き、自分なりにとてもやりがいを感じて取り組む事が出来たことと、とにかく毎日を楽しく学ばせて頂いたことから、療育園でぜひ働きたいと思い入職いたしました。めぐみ棟、ひかり棟そして現在は重症者ホームと勤務し、利用者の皆様との関わりの中で楽しさや嬉しさを感じることは10年経った今でも変わることなく、同時に日々教えられることも沢山あります。また、保護者の皆様からの優しいお言葉にもいつも元気を頂いています。久しぶりにお会いする際にも変わらずお話しして下さりとても嬉しく感じています。

これからも笑顔と、日々支えて下さる方々への感謝の気持ちを忘れずに勤めていきたいです。よろしくお願致します。

(重症者ホーム介護福祉士 中村 心)



藤田 英彦

「はじめの頃の行いに立ち戻れ」ヨハネ黙示録5b

「バプテストコロニー友の会」は6月の総会に於いて、伊原会長の提案で、設立後50年を期し、名称を変更し「重症児者と共々生きるミットレーベン・ネットワーク」として再出発することになりました。勿論今後、福岡をはじめ全国のバプテスト教会の人々が運動の中心を担うであろうが、今やバプテストのみでなく、多くのクリスチャンや、一般市民の方々が熱心に「重症児者と共々生きる運動」に関わっておられます。嬉しいことです。

「ミットレーベン(共に生きる)」は、当時西南学院大学学長でもあった「バプテストコロニー友の会」初代会長村上寅二先生の発案と伝えられ、それが定着して「ひさやま」の謂わばシンボリックスローガンとして定着し、街頭募金でも、開園祭の時でも「友の会」活動の骨格を端的に表す言葉であり、「心身に障害を持つ人や、その家族の重荷を共に担い、」人が人として尊重され合い、共に生きる社会を作り出すための運動体です。

「重症児者と共々生きるミットレーベン・ネットワーク」は、単なる「重症児者」及びその家族への支援ネットワークではない。誰が一番偉いかの問いに答え、「一人の子供の手を取って彼らの真ん中に立たせ、抱き上げて言われた」わたしの名のために、このような子供一人を受け入れる者は、わたしではなくて、わたしをお遣わしになられた方を受け入れるのである。「と」いうイエスの言葉は、「共に生きる」自分たちの小ささ、弱さを知る者への呼びかけの言葉です。現代の私たちを取り巻く社会は、分断と差別、自己責任追及と引き籠りの時代と言われ、「生きるに値しないのち」を平然と囁く者が現れる時代です。名称を変更し、新しい思いを込めて、再び歩みを始めようとする「重症児者と共々生きるミットレーベン・ネットワーク」にヨハネ黙示録2章の5「はじめの頃の(愛の)行いに立ち戻れ」を贈ります。

ミットレーベン・ネットワークからのお知らせ

第30回ワークキャンプ報告

毎年8月に、久山療育園で開催されて来た2泊3日のワークキャンプも、今年で30回目を迎えました。建て替え前の建物で始まった最初のワークキャンプは、参加者が50人以下であったと思います。食事は一度では済まないもので、若杉記念館で2回に分けて取りました。鍋などの食調理用具や食器は教会から持ち運びました。

そして、今年の参加者は122人で、多くが北九州、福岡地区からです。日本バプテスト連盟規模で行われている修養会などと比べても、質・量共にすぐれたものだと思います。それは参加者の多くが毎年参加しており、また久山療育園という場所で行われているからです。そこには、1/3程の初参加者を含んでいます。ベテランの参加者が初めての人たちを上手に導いて、何の違和感もなしにプログラム全体が進行して行きます。

参加者には、記念のTシャツが渡されます。今年は、第1回目と同じ紺色でした。また、プログラムも精選され、バラエティーに富んでおり、飽きることがありません。開会・閉会礼拝をはじめ、4回のワーク作業、体験学習、6回のおよく整えられた食事、街頭募金、入所者とのふれあい、食事介助、分かち合い、職員やグループホームの人たちも参加するバーベキュー、その後の温泉入浴等であり、今回は津久井やまゆり園事件の映像を見まし

た。園には医師が常駐し、小さい子供たちも自分ができることを手伝います。こうして、生命の大切さを身に刻み、仕えることを通して、自分の進路を考えることに役立つのです。「こちらが元気を貰いました」、「食べさせてもらう側の気持ちになつて・・・」、「最初は知らないことばかりだったけど・・・」、「友達ができてうれしかった」などの感想文に、充実ぶりを見ることができます。

2019年度は、「バプテストコロニー友の会」が創立されて50年目の節目を迎え、私たちは重症児者と共に生きる「ミットレーベン・ネットワーク」と名称を変更しました。そして、2020年2月1日(土)に、西南学院大学チャペルで記念のコンサート(ジョイ倶楽部アンサンブル)と講演会(東八幡教会牧師奥田知志氏)を予定しています。多くの参加者で会場をいっぱいにしたいと、今から準備しています。

また、その前に今年も年末に7日間の街頭募金を計画しています。場所は西日本新聞社(博多大丸)前で、13:00~15:00です。今から計画に入れてご参加ください。

なお、街頭募金日程は12/14、12/21、22、23、24、25、26で、前半4日が伊原幹治、後半3日が山田雄次の担当です。

(ミットレーベン・ネットワーク 会長 伊原幹治)



2019年ワークキャンプのよう

2019年末コロニー友の会街頭募金を下記の日程で行います

(場所) 天神大丸デパート前 13時~15時
 (日程) 12月14日(土)・21日(土)・22日(日)・23日(月)
 24日(火)・25日(水)・26日(木)

*日程については雨天等により急遽変更する場合がありますのでご了承下さい。
 たくさんのご参加をお待ちしています!

当日の問い合わせ・連絡先
 久山療育園 ☎092(976)2281



ボランティアだより

ボランティアさんによるコーヒー販売は、久山療育園の改築にあたり、改築に向けて機運を盛り上げることで、ボランティアをはじめ皆が改築に協力できる具体的な場をつくること、改築のために献金することも目的に始まり、改築が終わっても、「園のために」ということで継続されています。

食堂前に専用カウンターを設置し、煎れたてのコーヒーとお菓子は、利用者・家族・職員の楽しみと なっています。それだけでなく、ボランティアさんとのつながりを感じられるとても大切な時間となっています。開始当初から木曜日に実施されていましたが、今のまま続けていくことが難しくなってきたため、6月24日のボランティア懇談会で他の曜日の方に実施についてお願いしたところ、水曜日のボランティアさんが引き継いで実施して下さることとなりました。

7月最後の木曜日、今まで長い間、実施して下さったことへの感謝の思いを込めて、利用者が描いた絵を手作りの額に入れ贈りました。

8月からは、第4水曜日に山下順子さんと山田かおりさんが「細く長く頑張ります。」と、コーヒ

販売をして下さっています。本当にありがとうございます。みなさんは是非、第4水曜日は100円を持って食堂前にお越しください。ひつじのかわいい絵が目印です。
コーヒー販売に今まで関わって下さった方々、そしてこれから関わって下さる方々に、心より感謝申し上げます。
(ボランティア委員会 山田いずみ/大重佐和子)



長い間おつかれさまでした！



新しいコーヒーボランティアの
お二人です！

ボランティア講習会 のお知らせ

【日時】11月9日(土)
11時～15時

【内容】久山療育園重症児者医療療育センター内見学・介護体験・利用者とのふれあいなど。
(参加無料)

☎092-976-2281

(担当：陣内)

歩 行 器

今年も9月23日(祝)第43回開園祭が開かれました。

当日は感謝礼拝から公開療育「ひっぱれ!」、ふれあい「ゲーム大会」や模擬店(食堂バザー)、地域貢献フェア「血管年齢測定等が行われ笑顔あふれる感謝の一日となりました。

感謝礼拝では宮崎信義理事長から「第43回開園祭を迎えて」と題して祝辞と久山療育園の設立理念の話がありました。

設立当初の「愛の手を」14号(1975.12.10)には故川野直人初代理事長の、「久山療育園の建設を一つの手がかりとして—新しい福祉社会の建設をめざす—」と題する文書があります。

「わたしたちのこの働きは、祈りから始まったのだから、祈りで完成させねばなぬ。そう思っています。・障害児に特別な施設やよい環境を用意し、そこに集めて保護して、こうという考え方には、私たちは反対です。重症児を特別視し、同情や哀れみの対象とするのではなく、重症児も私たちの社会を構成する大切な一員だ、ということを出発点としたいのです。強い者、有能な者、力ある者だけを中心とする社会はどこか狂っています。そのような考え方からは、本当の平和は生まれません。身も心も弱い者が、社会の中心になっていく時こそ、思いやりと温かさ、心豊かな平和な社会が始まるといえると思います。」

この言葉は、これからもずっと、久山療育園では生き続ける理念としたいと思います。

多くの方々の祈りと支えにより43年の歩みを進めることができました。

今日も園では利用者の方々とスタッフの明るい笑い声が聞こえてきます。これからも最も弱い立場にある利用者の方々とともに歩んで行く園でありたいと願っています。

(H・N)